

## 心臓血管病リスクの低い女性の冠動脈石灰化、リスク予測精度をわずかに改善

米国心臓病学会(ACC)および米国心臓協会(AHA)の心臓血管病予防ガイドラインに基づく、心臓血管病のリスクが低い女性に対する冠動脈石灰化検査の役割は不明である。本研究では、アテローム動脈硬化性心臓血管病のリスクが低い女性のリスク予測および層別化における冠動脈石灰化検査の有用性を評価するため、メタ分析を行った。

地域住民を対象とした5つの大規模なコホート研究(米国のダラス心臓研究・フラミンガム心臓研究・アテローム動脈硬化症多民族研究、ドイツのハインツ ニコルドルフリコール研究、オランダのロッテルダム研究)の参加者のうち、アテローム動脈硬化性心臓血管病の10年リスクが7.5%未満の女性6,739例(年齢44~63歳)がメタ分析の対象となった。5つの研究で冠動脈石灰化が確認されたのは全体の36.1%であった。追跡期間の中央値の幅は7.0~11.6年であった。165件のアテローム動脈硬化性心臓血管病イベントが発生した(非致死的心筋梗塞64件、心臓血管病死29件、脳卒中72件)。冠動脈石灰化ありの群では、なしの群と比べてアテローム動脈硬化性心臓血管病リスクが有意に高かった(1,000人年あたりの発生率:1.41 対 4.33件;多変量補正ハザード比:2.04)。従来のリスク因子に冠動脈石灰化を加えると、C統計量(イベント発症者と非発症者を正しく弁別する判別力を測る指標)が0.73から0.77へと改善した。したがって、アテローム動脈硬化性心臓血管病のリスクが低い女性のおよそ3分の1に冠動脈石灰化が認められ、冠動脈石灰化によりアテローム動脈硬化性心臓血管病のリスクが上昇し、従来のリスク因子に加えると予後予測の精度がわずかに改善することが示された。この予測精度の改善の臨床的有用性と費用対効果については、さらなる検討が必要である。

出典: Journal of American Medical Association. 2016; 316(20): 2126-2134